

や、やだっ……
いやです……これから一生この身体なんて……！
か、返してっ……返してくださーいっ……ぼくの……身体……

アラサー豊満シスターさんが
熟れた身体を年下冒険者くんに
押し付けるはなし

原作 なまむぎ
漫画 羅ふい
企画 あむあいおかし製作所

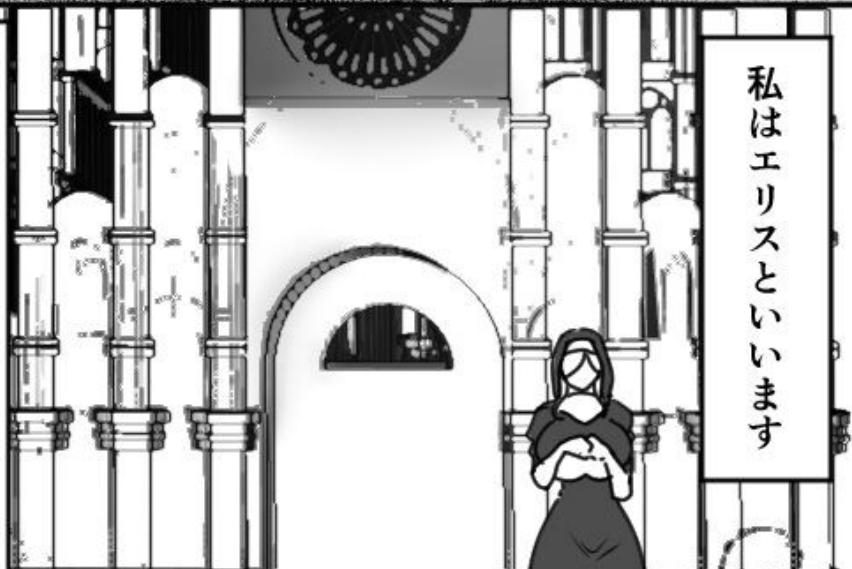






ですが聖職者である私には
その役職に似つかわしくない
ある秘密がありました…

とある田舎町の教会で
シスターを務めています
仕事と言えば稀に
近くのダンジョンで
呪いを受けた
冒険者の方たちが
解呪を求めて
いらっしゃるくらいです



それが…これ

私の身体は普通の人よりも
性欲が強いのです

若いころから
日に1度は性欲を発散
させなければ我慢が
できないのです

ひとり遊びを覚えて
もう20年近く…その間
自身を慰めない日は
ありませんでした

そしてその
結果でしょうか

月日を経るにつれて
私の身体はどんどん
女性らしさを
増していきました

それに性欲も
ますます増すばかりで…

ぷりん♡

トロ♡

トロ♡

快楽とはいえ
それも過ぎれば
苦痛でしかありません

私にとっても
この身体で
味わう快楽は
もはや苦痛に
なりつつあります

こんな淫乱な
身体なんて捨てて
この肉欲から逃れたい…

そのためなら
たとえ悪魔に
魂を売ってでも…

最近の私は
そんなことばかりを
考えています

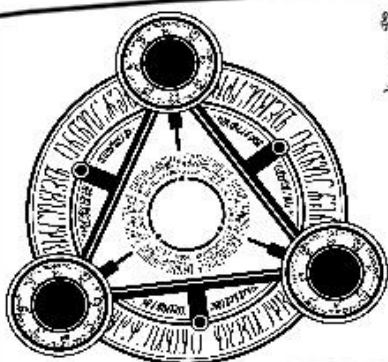
…はあ

…あら？
なんでしょう

ハッ…

…これは

書庫の隅に忘れ去られていた
その書物は
かつて教団が邪教徒から
押収した魔導書でした



…そしてそこに
掲載されていたのは
外法として禁じられた
様々な呪術でした



か
ち
ゃ

あ あの…
これは…？

これですか？
これは解呪のための
魔法陣です

どうぞ
お気になさらず

それではさっそく
解呪を始めます

ス
…

お
お願いします

な
なんだろう…

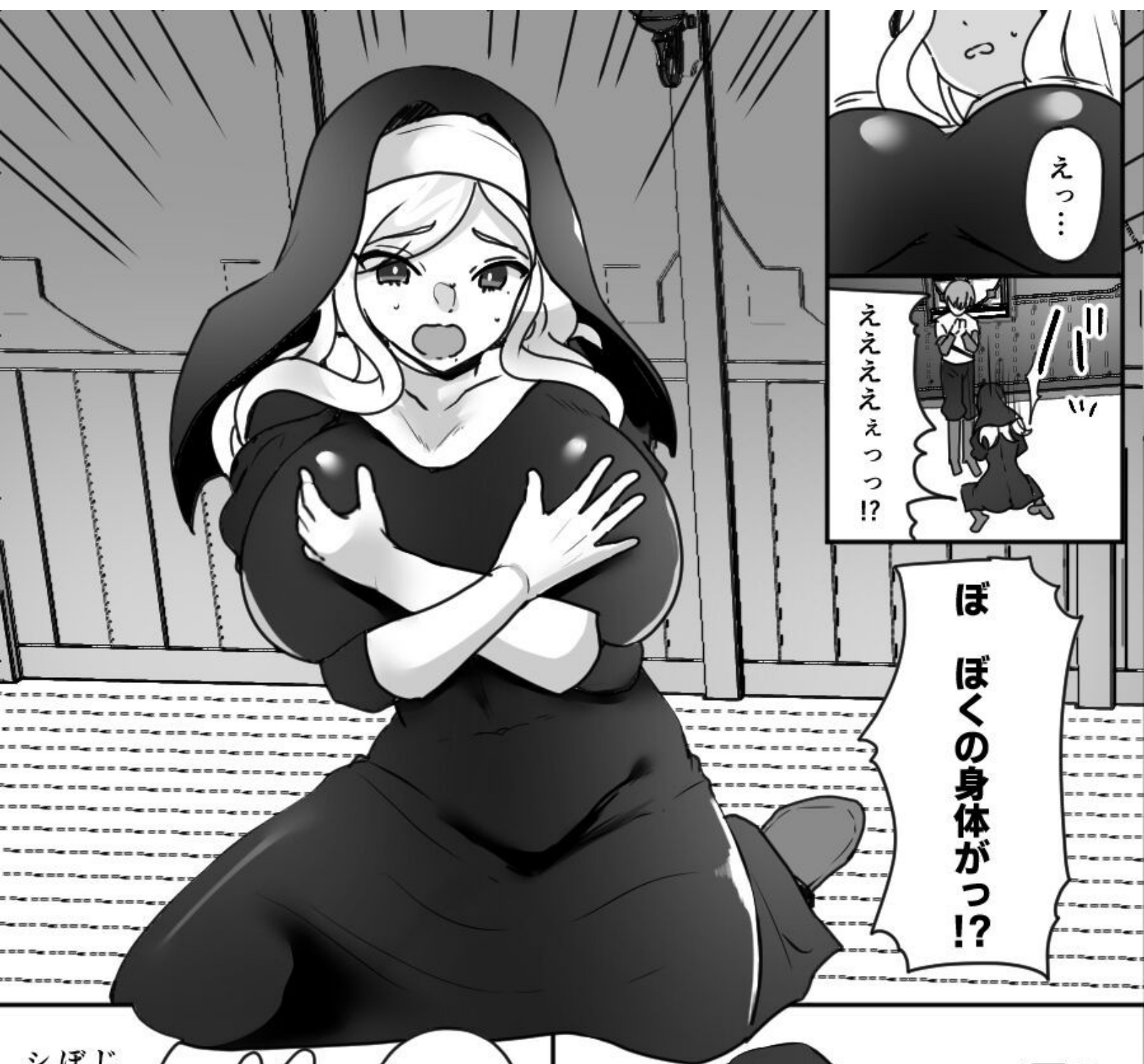
い
いしきが…
う…すれ…て…

フ
…

…？







ぼ ぼくの身体がつ!?

えっ...

えええええっ!?

ス...

お氣を確かに

どうやら私たちの身体…
入れ替わってしまった
ようですね

じゃ じゃあ
ぼくは今
シスターさんの身体に!?

どうやら冒険者様が
受けた呪いは
周囲の人と身体を
入れ替えてしまう
ものだったようです

私も気が付き
ませんでしたか…

そ
そんなっ！

…もちろん
これは嘘

彼が受けたのは
一定期間力が少し
落ちる程度の
簡単な呪いでした

それも私が呪いを
上書きしたせいで
今は消えています

ほら見てください
呪紋が浮かんで
いるでしょう？

これが私たちの
受けた呪いの証です

本当だ…

も元には
戻れるんですか!?

安心してください

この呪いは
入れ替わっていることを
誰にも知られずに
ひと月経てば
自然に解呪されます

誰にも
バレずに1ヶ月…

じゃあミアに
このことを伝えるのは…

ええ お連れの方にも
このことは黙ったまま
お互いに互いのふりをして
生活しなければなりません

そ
そう…
なんですか…

ん…
大丈夫
しばらくの
辛抱ですよ

ひと月経てば
自然に身体は戻って
この呪紋も
消えるはずですよ

…ですから

お互いに成り済ますため…
あなたのことを色々と
教えていただけますか?

…それじゃあ
ぼくらは失礼しますね
シスターさん

また数日したら
呪いを見てもらいに
来ますから

あう…

はい…
わかりました…

さ 行こうかミア

魔導書に
記された
この呪いの
効果は1ヶ月

入れ替わった2人が
身体を重ねると
この状態のまま
固定されてしまいますが
そうでなければ
自然に元の身体に
戻るそうです

ごめんなさい
冒険者さん

ひと月の間…
私にこの身体を
楽しませてください

ひと月したら
ちゃんと身体は
お返ししますから

ですからその間
あなたは私の
身体でお過ごしください



こうして私は冒険者である
リックさんの身体をお借りして
生活することになりました

この身体で
過ごす生活は
とても素晴らしい
ものでした

身体を動かす
というのが
こんなにも
楽しかったなんて

巨大なやお尻のない
引き締まった少年の身体

元の私の身体からでは
想像もできない
ことでした

それに…この身体に
なってからというもの
性欲を持て余して
懊悩することはありません

こうして別の身体で
過ごしてみると
元の身体の性欲が
どれだけ強かったのか
よくわかります

事前にリックさんに
教えてもらっていたおかげで
連れのミアさんも
私が入れ替わっていることに
全く気が付いていないようです

ニッ…

ニッ?

そして…
入れ替わって
から数日がたって

私は元の自分の
様子を見るために
教会を訪れました

どうでしょう

私としての生活は
うまくいっていますか？

はい

まだシスターさんの
身体にはまだ
慣れないですけど
生活の方は大丈夫です

でも…あの…

どうかしましたか？

？

はい…あの… なんだか
わからないんですけど…

シスター様の
身体になってから
身体が…
いつも熱いんです…

お腹の奥がすごく
切ない感じがして…
頭もぼんやりするし…

何かが欲しいような
気がして
堪らないんです

夜もあまり
寝つけなくて…

これって…
あの呪いのせいですか？

それとも
何かの病気でしょうか…？

モミ

モミ

身体が熱い…
ですか

…ああ
なるほど

この子 私の身体で
性欲を溜め込んで
しまっているのですね

入れ替わってから
今日で5日…
その淫乱な身体で
それほど溜め込んでいるのは
さぞつらいでしょう

彼は元々男の子…
まして『そういうこと』を
まだ知らない年齢です

女の身体の性欲が
何なのか
理解できていないのしょう

あ あの…
シスター様…
どうなんで
しょうか…?

…大丈夫ですよ

それは呪いの効果や
病気ではありません

ただ身体の中に
悪いものが溜まって
いるだけです

悪い…
もの？

ええ
そうです

安心して下さい

いん

今から私が
あなたを楽にして
差し上げますから





シ
シスター様っ？
な 何を…っ!?

少しの間
我慢してくださいね

ひああっ!?

せく…

あっ…ああっ…

な 何ですかこれっ…!

いま
何をしたんですか…っ？

どうか怖がらないで
ください

楽にして
身体を私に任せて…

せく



初めての快感に耐えている姿
元の自分とは言えとても
可愛いんですね

少し…虐めたく
なっています

せり

ふふっ

ス…

おっおっ!

な 何これえっ!

や やめっ!!

やめてくださいっ!



ここんなの

はッ

はッ

ムニ

ぼくっ
あたまがおかしく
なっています
ますうっ!

はッ

だめですよ

今やめても元の苦しい
状態に戻るだけです

はッ

はッ

その身体に溜まった
悪いものを追い出すには
最後までしないといけません



ふああああああっ！

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ



それからも
私は定期的に
教会を訪れました

私が室内に入ると
彼は毎度のように
自身を慰めていました

その淫らな姿からは
純粹無垢な少年だった
元の彼の姿を想像することは
到底できません

あまりに絶頂を迎えすぎて
ほとんど意識を失いながらも
彼はそれでも何かに
取り憑かれたように

あつ…
やつ…

はあ

はあ…

あんっ

はあ
や
やらあつ…

クリッ

クリッ

クリッ

クリッ

キュッ

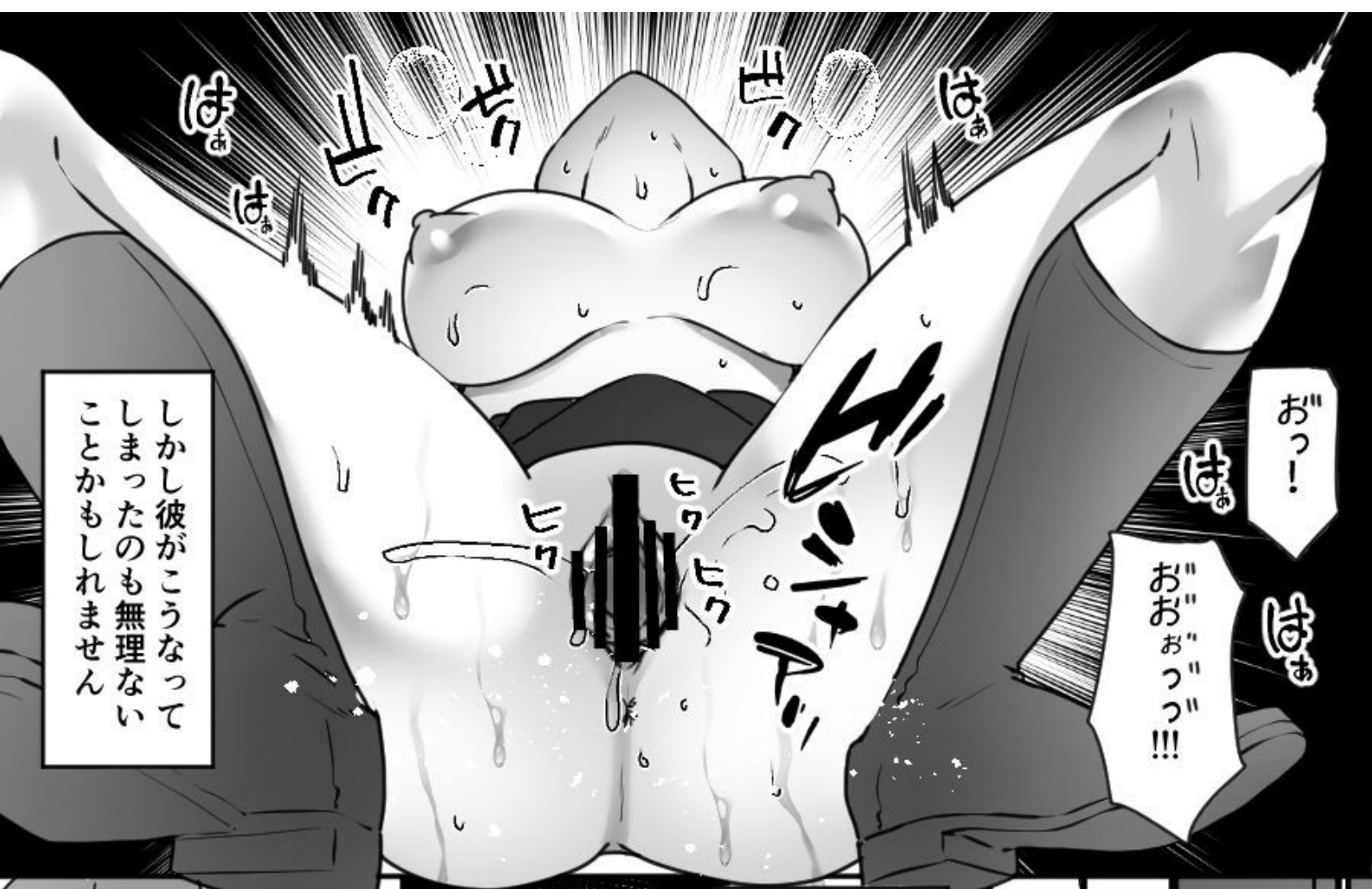
はあ

もうイキたくない…
イキたくないのに…
手が止められないよおお…

キュッ

キュッ

はあ



しかし彼がこうなって
しまったのも無理ない
ことかもしれない

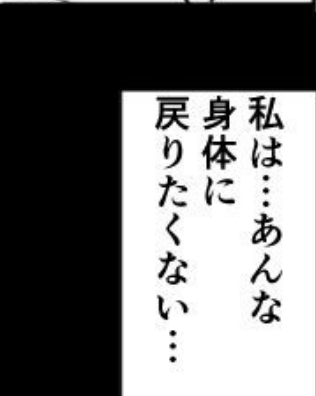


そしてそんな元の身体の
痴態を見て……
私の中で ある思いが
膨れ上がっていきました

こうして…純粋な少年だった彼は
わずかひと月の間で
元の私以上に淫乱な女に
落ちていきました

しかも20年近くかけて
開発されてきた熟れた身体での
蕩けるような快楽を
味わってしまったのですから

性欲な知識もない少年が
いきなり女性の快感を…



私は…あんな
身体に
戻りたくない…



そして私たちが
入れ替わってから
もうすぐひと月：

私はその日も
教会を訪れていました

ガチャッ

はッ
はッ

…ある目的を胸に抱いて

セッ
はッ
はッ

はッ

ガチャッ
ガチャッ

ガチャッ

はッ
セッ
はッ

おッおッおッおッ!!!

ガチャッ
ガチャッ
ガチャッ



ごめんなさい…っ！

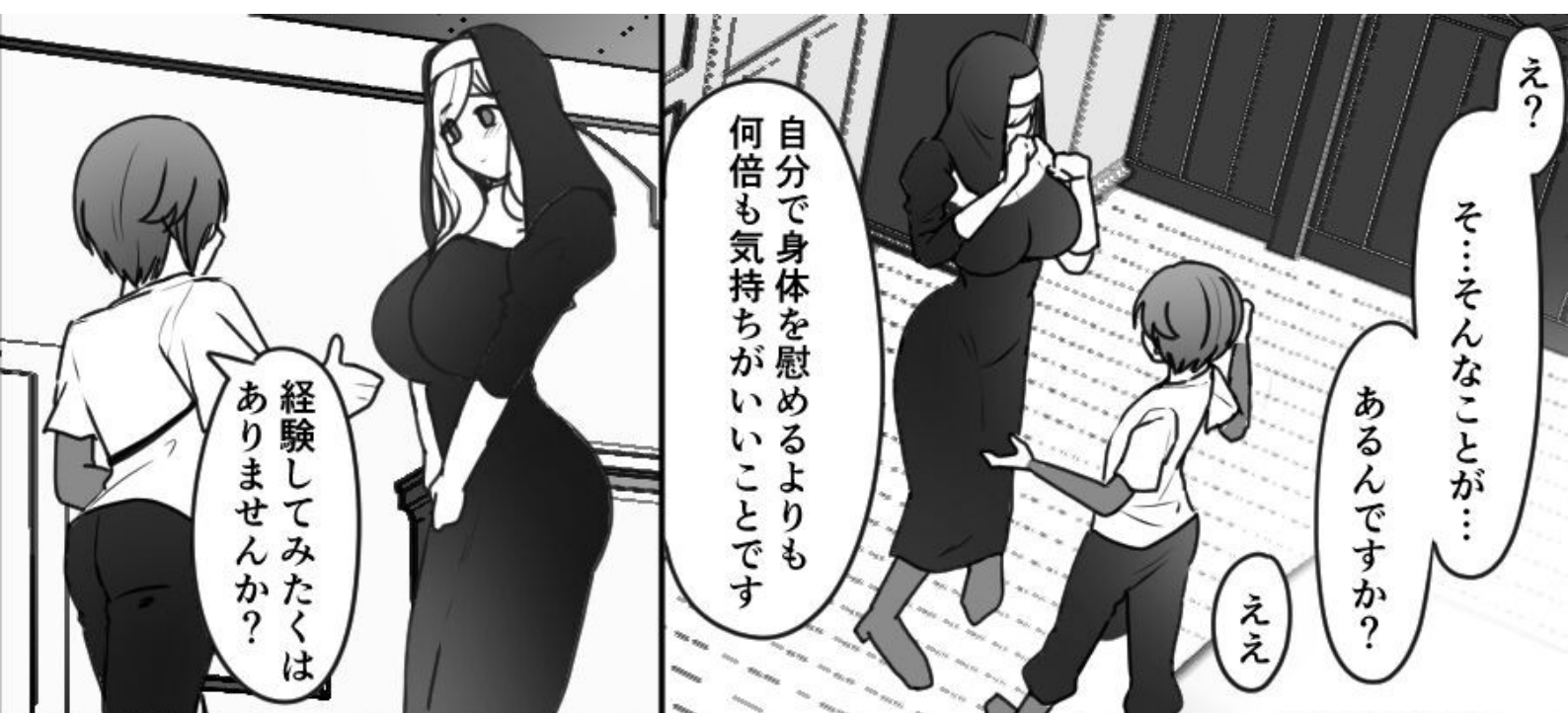
あうっ…
シスターさま…



…また致していたのですか？







ああの
どうして
シスター様も
服を脱いで
いるんですか？

ドキ

ドキ

もちろん
気持ちいい
ことをするため
ですよ

ドキ

ドキ

ス...

こうして...ね

ドキ

ゼ

はッ

ゼッ

はッ

ひびいてっ!!

はッ

グッ
ブズブズ

はッ

ああっ!!

はッ

すごいです
これっ!!

はッ

私の膣肉が...
私のモノに絡み
ついてきて...



な なんですかつ
これえっ!!!

ぼ ぼくの中につ
これっ なっ なにを
入れてるんですかあっ!?

は

は

は

は



硬くて 熱くて
ビクビク動いてっ!!

は

は

は

は

は

あんっ♡

は

は

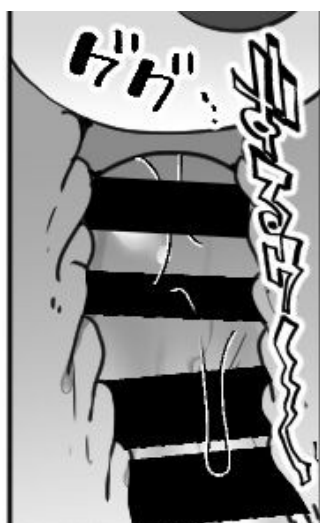
は

は

は



私の身体がこんなにも
気持ちよかったなんて…
自分でも知りませんでした



挿入した私のモノに
無数の膣壁がうねうねと
絡みついてきて
柔らかく締め付けてきます

ああ…これが…
男性の性欲…



目の前でゆさゆさと
揺れるおっぱいが
私の理性を狂わせます



おおお
おおお
おっつっつ♡!!

元は少年だった
彼の身体に備わった
すさまじく巨大なおっぱい…

あっ…が…

や…やめ…もうやめへ…

はぁ

これいじょうされたら…
ぼくこ壊れちゃいます…っ

はぁ

例えるならば暴走する馬車を
非力な少女の腕では
どうしても御することが
できないように…

何もできずにただ
身体の欲求に
振り回される彼に対して
一瞬哀れみを
覚えてしまいます

そう言いながらも
彼の身体はまだ私の
ペニスを激しく
締め付けてきます

理性は快楽を
拒もうとしているのに
身体の方は全くそれを
聞きいれてくれないようです

純粹な少年の
魂では成熟した
女の身体の
肉欲は抑えられない
のでしょうか

でもまだ駄目です

まだ…私の目的は…





はあ…はあ…

手を見ると
呪いの証である
紋様は綺麗に
消えていました



せ 成功した…!!



これから私は私が
この身体の主…!!

でも 私たちの
身体は元に戻って
いません



…という
ことは

力強くて 軽快に動かせて 若くて…
そして脳を蕩かすような
オンナの淫欲とも無縁な
この身体の…!!



これから私が
この身体での人生を
歩めるんだっ…!!







だから言ったでしょう

私たちの魂はお互いに
今の身体に固定されたのです

もう 私たちの魂が
元の身体に戻ることはありません

あなたはこれから
一生その身体です

そ そんなっ…!!?

ど どうしてっ!?

さっき私たちがした行為…
男女が交わること

それをする
魂がその身体に
固定されて戻らなくなる

私があなただけに
かけたあの呪いは
そういうものだったんです

シスター様が
呪いをかけた…?

じゃ じゃあ最初から
ぼくを騙していたんですか!?

「カッ」

なんでっ!?

なぜって その身体を
捨てたかったからに
決まっているでしょう?

そんな身体で生きていくなんて
私はまっぴらごめんでしたもの

その身体を受け継いだあなたは
これからの人生大変ですよ？

その大きなおっぱいは
歩きたびにゆきゆきと揺れて
とても邪魔ですし人目も集めます

同じように大きすぎる
お尻のせいでバランスだって
取りにくいです

まあこれからあと1年も
その身体で過ごせば
嫌でも慣れていくでしょう

いや……

10歳以上も年上の身体に移されたせいで
若さも失ってしまいましたね

ただでさえ大きな胸のせいで
肩も凝りやすいのに最近腰も少し痛くなっ
ていましたから その身体

どうぞ健康には
気を付けてお過ごしください

そ そんな……

寝ても覚めても その欲求は
あなたの意識から消えることはありません

これからは毎日がんばって
自分の身体を慰めてくださいね

そして何よりつらいのは やっぱりに
身体の奥から湧き上がってくる性欲でしょう

あ……あ……

…や
やだっ…

いやです…これから
一生この身体なんて…!

か返してっ…
返してくださいっ…
ぼくの…身体…

私はあなたにちゃんと
お伺いしましたよ?

性行為を
するかどうか
すべては
あなたの
お気持ち次第です
と

あなたはしたいと
答えましたよね?

そうしてあなたは
自分でその身体を
選んだのです

その身体で
これからの人生
生きていくことを
選んだのです

「ズル…」

往生際が悪いですよ

「ぶるっ♡」

「せいの」

「せいの」

わわっ♡!?

し 知っていたら
そんなこと
しませんでしたっ!

返してください!
僕の身体…!!

あ…ああっ♡…

ふふ

いったばかりなのに
またスイッチが入って
しまったでしょう？

そうして自慰をしている姿
とてもエッチで今のあなたに
とてもよくお似合いですよ

ミアちゃんだって
その姿を見てまさか
中身があなただなんて
気が付かないでしょうね

まったくその身体は
本当に底なしに淫乱ですね

あつ…ダメなのに…

て手が…
止められない…♡

はあ

グググ…

はあ

グググ…

グググ…

グググ…

